国土交通省　東北地方整備局
青森河川国道事務所
Aomori office of river & National highway

記者発表
Press Release

平成２８年　５月１７日
青森河川国道事務所

広域交流の促進や産業振興による地域活性化を支援
～ 国道4号七戸バイパス 開通5年後の整備効果 ～

■一般国道４号七戸バイパス（延長 5.7km）は、七戸町内の交通混雑や隘路区間の解消、安全で円滑な交通の確保、広域交流の促進等を目的に整備を進め、平成２２年度に暫定２車線開通しました。
　今回、開通５年後の整備効果についてとりまとめましたのでお知らせします。

◆広域観光の支援及び観光活性化に寄与

（事例①：七戸十和田駅へのアクセス性・利便性が向上（十和田市～七戸十和田駅の所要時間は 10 分短縮）し、新幹線駅利用者と七戸町内観光者数の増加を支援）

◆肉用牛の品質保持と取引金額の向上に寄与

（事例②：肉用牛の生体輸送において、安定輸送と時間短縮で輸送時の肉質保持を支援し、取引額が向上（H23→H26 1.3 倍））

【事業経緯】

平成 元年度　事業着手
平成 22 年度　暫定 2 車線開通

＜記者発表先：青森県政記者会、建設関係専門紙＞

お問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局　青森河川国道事務所
副所長（道路）　高橋（たかはし）　秀典（ひでのり）　（内線 205）
（代表）017-734-4521
調査第二課長　佐々木（ささき）　耕嗣（こうじ）　（内線 451）
（直通）017-734-4570

一般国道4号　七戸（しちのへ）バイパス

【開通５年後の整備効果資料】

平成２８年　５月１７日
国土交通省　東北地方整備局
青森河川国道事務所

1．事業の目的と概要

事業完了後５年経過

○事業目的
- ・七戸町内の交通混雑や隘路区間の解消
- ・安全で円滑な交通の確保
- ・広域交流の促進

○計画概要

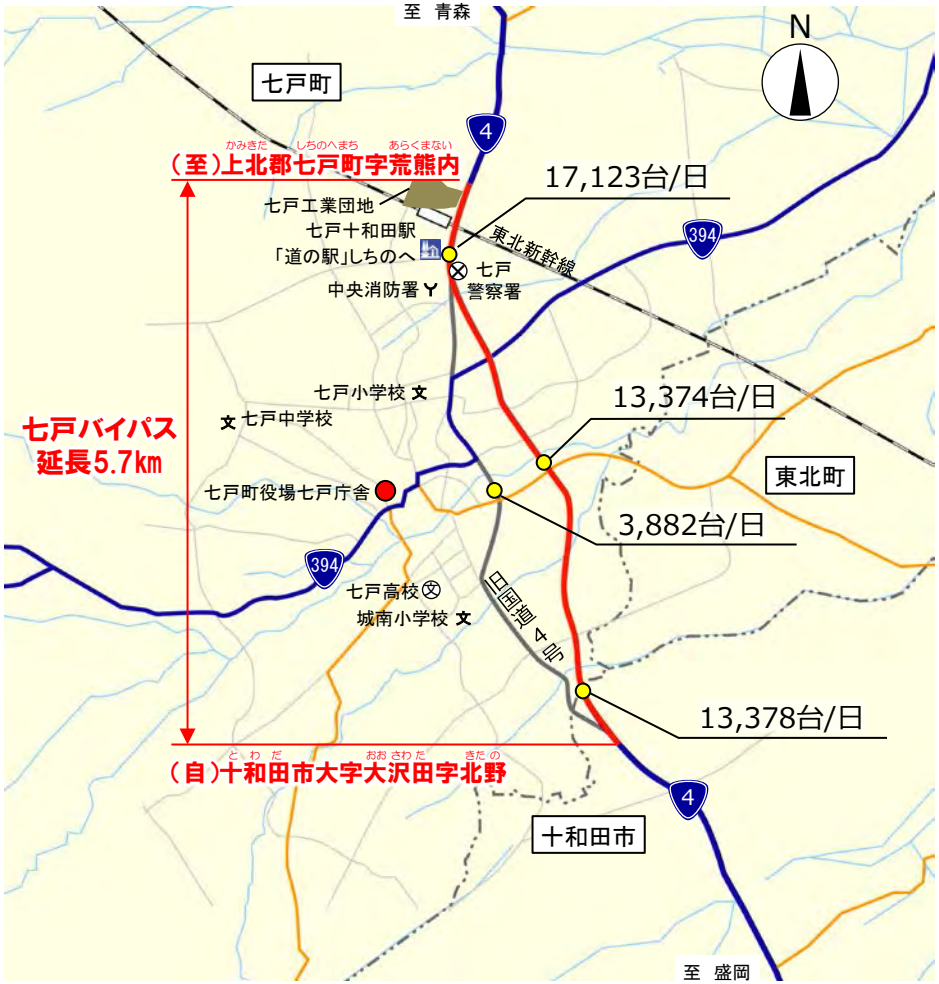
起終点　：自）青森県十和田市大字大沢田字北野
　　至）青森県上北郡七戸町字荒熊内

延長　：５．７ｋｍ
幅員　：(暫定)１４．５ｍ
　　(完成)２８．０ｍ
道路規格　：第３種１級
設計速度　：８０km/h
都市計画決定：平成元年度
事業化　：平成元年度
用地着手　：平成６年度
工事着手　：平成７年度
全線開通年度：【暫定】平成２２年度（H22.11）

位置図

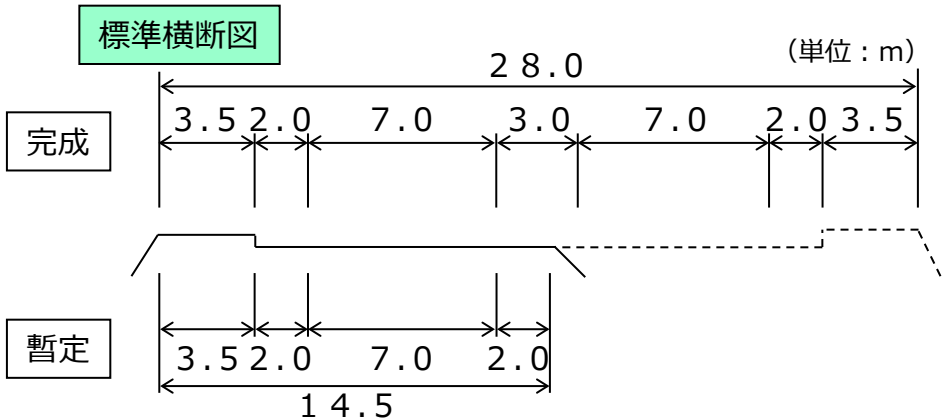


平面図



※交通量はH27.7調査

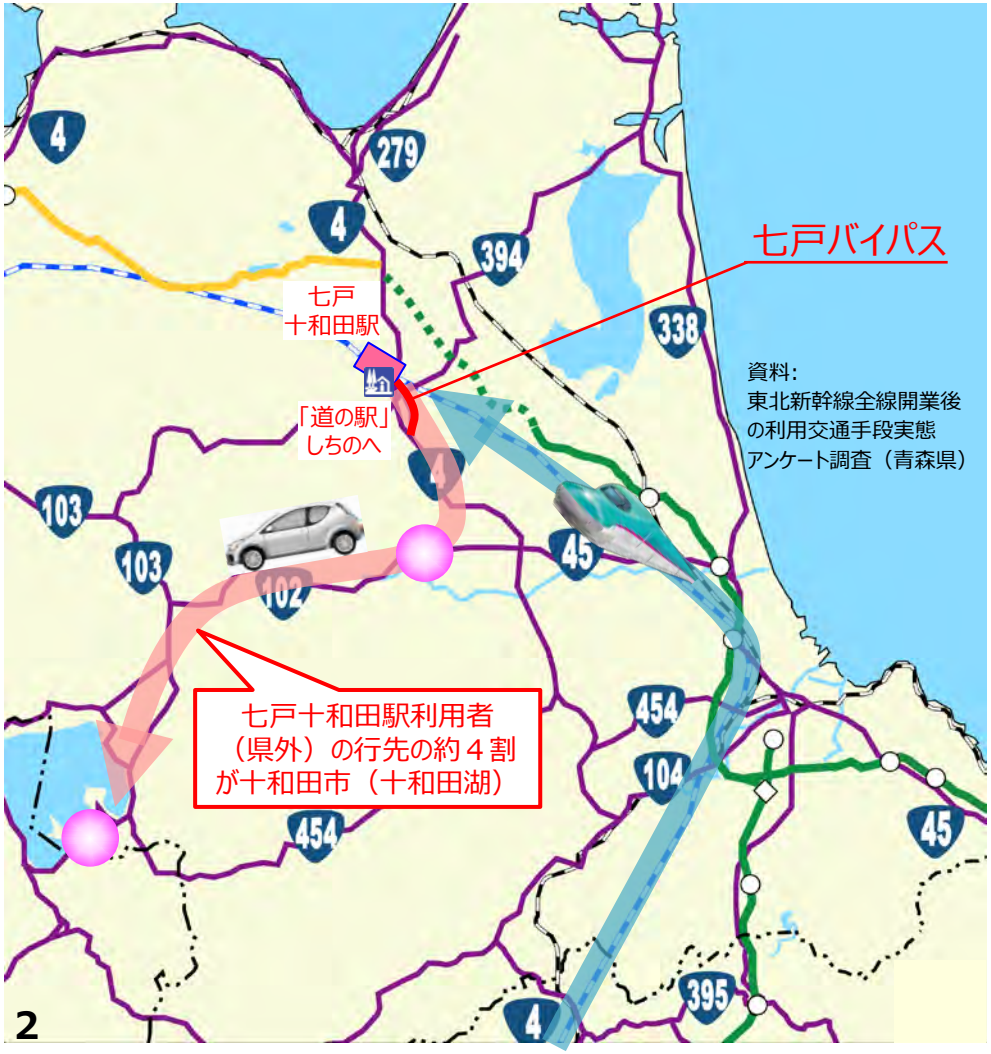
標準横断図



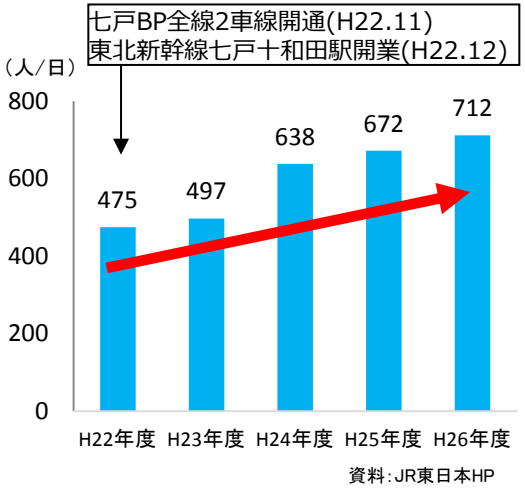
2．事業効果の発現状況（１）　広域交流の促進　【事例①】

◆東北新幹線七戸十和田駅で下車した県外観光客は、レンタカー等の2次交通に乗り換えて下北地域や十和田市等の観光地を訪れている。
◆駅開業の1か月前に開通した七戸バイパスにより、七戸十和田駅へのアクセス性、利便性の向上が図られ、広域観光の支援及び観光活性化に寄与している。

▼ 七戸十和田駅利用者（県外）の観光目的地

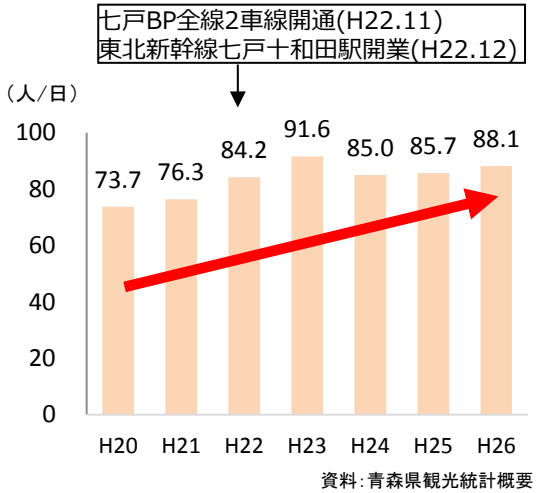


▼ 東北新幹線七戸十和田駅の平均乗車人員



資料：JR東日本HP

▼ 七戸町の観光者数（主要観光地合計）の伸び



資料：青森県観光統計概要

＜十和田市役所観光推進課の意見＞



○十和田市から七戸十和田駅まで以前は30分程度かかったが、バイパス開通後は20分に短縮し、**定時性も確保され、安心感が増した**。
○仙台出張の際は、遠くなる方向だが、バイパスができて近くなり、**時間が読めることから、七戸十和田駅をよく利用**している。
○バイパスを出てすぐ駅があるということが、利用者・案内する側の双方にとって良い印象であり、**バイパスの恩恵を感じる度合いが大きい**。

（H28.1　ヒアリング結果）

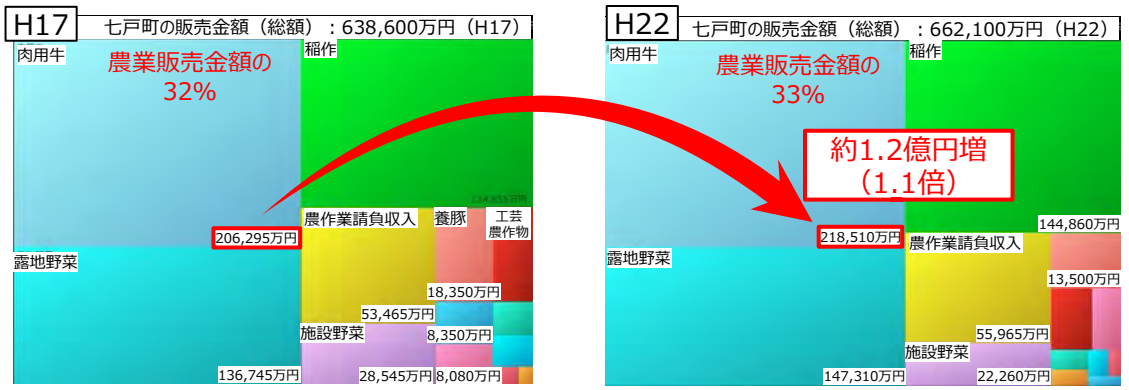
2．事業効果の発現状況（２）　農産品の輸送効率化･品質向上を支援　【事例②】

◆七戸町は肉用牛の取引が盛んな地域となっており、青森県畜産農協連合会では、県内各地の畜産農家より肉用牛を集めて、東京食肉卸売市場へ生体輸送している。
◆七戸バイパスの利用により、肉用牛の肉質保持に寄与し、取引額が向上している。

▼　青森県畜産農協連合会の食肉の輸送ルート

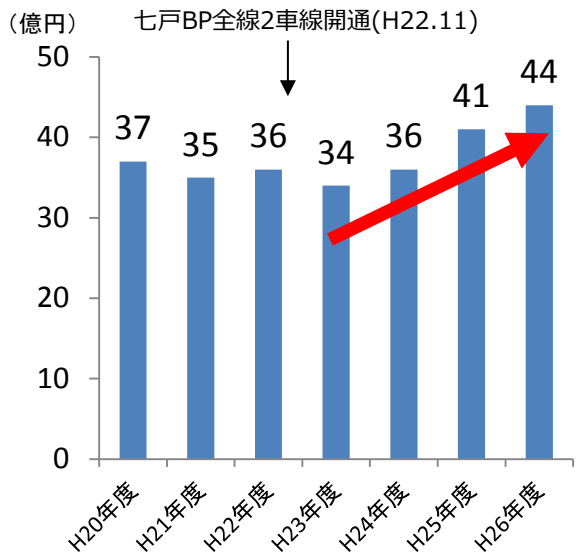


▼七戸町の農業花火図　農業部門別販売金額（総額）



資料：RESAS（地域経済分析システム）

▼　家畜市場の取引金額の推移



資料：青森県畜産農業協同組合連合会提供資料

＜青森県畜産農協連合会の意見＞



○旧道利用時は、急勾配やカーブが多く、牛の肩がぶつかり肉質が低下することがあった。
○また、生体での出荷は、**輸送時間の増大が 牛のストレスとなり、肉質が低下する要因**の 一つである。
○バイパス整備後は、線形不良箇所や市街地の回避により、**安定搬送、輸送時間の短縮が図られ、輸送時の肉質保持が実現**した。

（H28.1　ヒアリング結果）

2．事業効果の発現状況（３） 交通混雑の解消

◆七戸バイパスの現道交通量は、整備前後において、16,518台/日→3,882台と約８割がバイパスへ転換している。
◆また、現道の旅行速度は、整備前後において、37.1km/h→55.8km/hと、18.7km/h向上している。

▼ 整備前の現道の混雑状況

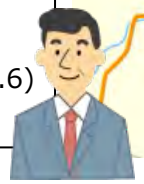


▼ 整備後の現道の混雑緩和状況



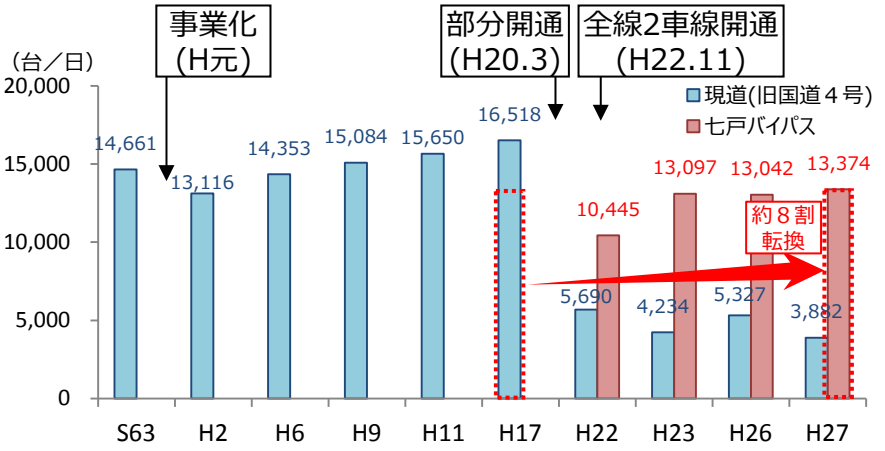
現道については、カーブしながら上ったり下ったりと、**かなり渋滞**していましたが、**七戸バイパスの開通後はそういったものがまったく無くなり、通過時間が短縮**しました。

七戸バイパス開通に関する座談会(H23.1.6)における七戸町長の発言





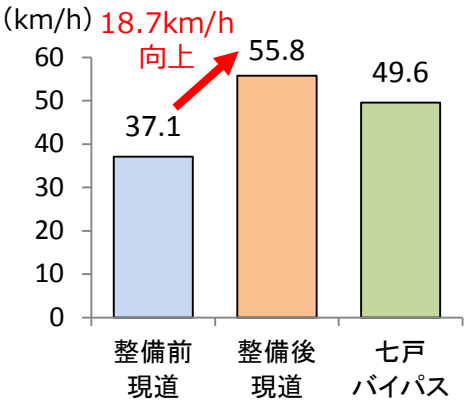
▼ 現道及び七戸バイパスの日交通量の推移



資料 【七戸バイパス】
H22道路交通センサス※A´の位置
H23、H26トラカンデータ※B´の位置
H27交通量調査結果※A‘の位置

【旧国道4号】
S63～H22道路交通センサス※Aの位置
H23、H27交通量調査結果※Aの位置
H26交通量調査結果※Bの位置

▼ 七戸バイパス整備前後における現道（旧国道4号）、バイパスのピーク時旅行速度の変化



資料：プローブデータ

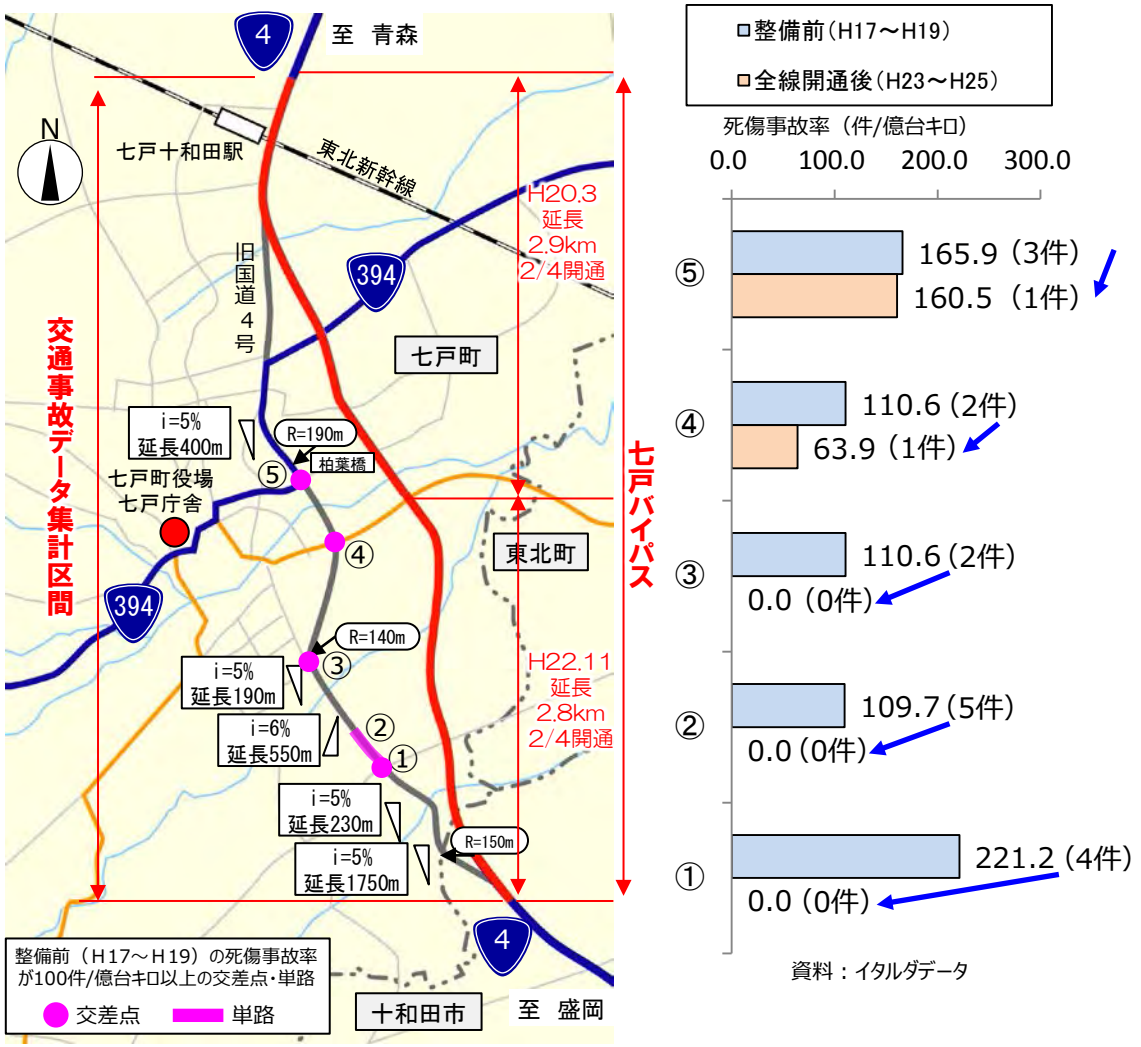
整備前：H15.11
整備後：H26.10

ピーク時（8時台）の速度

2．事業効果の発現状況（４）　安全な交通の確保①

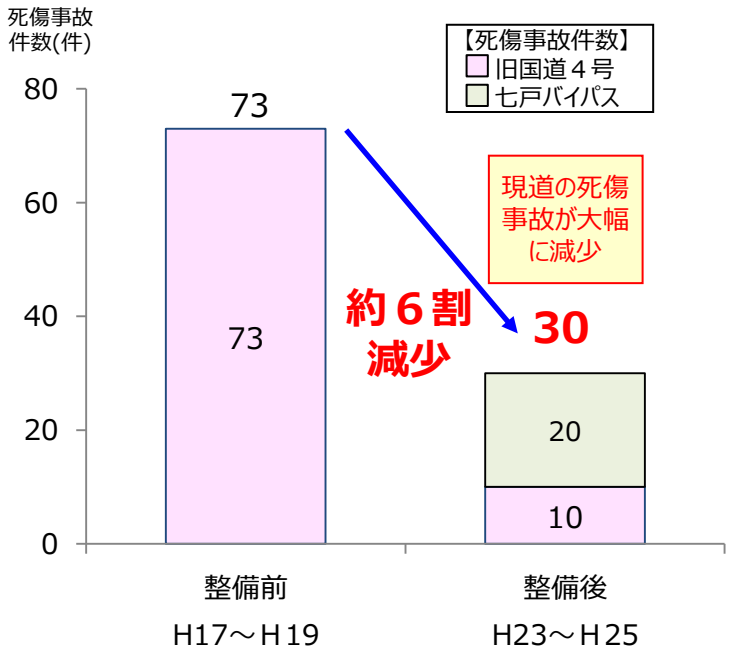
◆七戸町内の旧国道4号は急こう配、急カーブ等の線形不良箇所が多く、日交通量が1万5,000台を超えており、死傷事故率が高い交差点・区間が多く存在していた。
◆七戸バイパス整備後は、旧国道４号の交通量がバイパスへ転換したことにより、事故危険箇所の死傷事故率が軒並み減少し、安全な交通の確保が図られている。

▼ 死傷事故率100件/億台キロを超えていた交差点・区間の死傷事故率の変化



資料：イタルダデータ

▼ 現道（旧国道4号）の死傷事故件数の変化



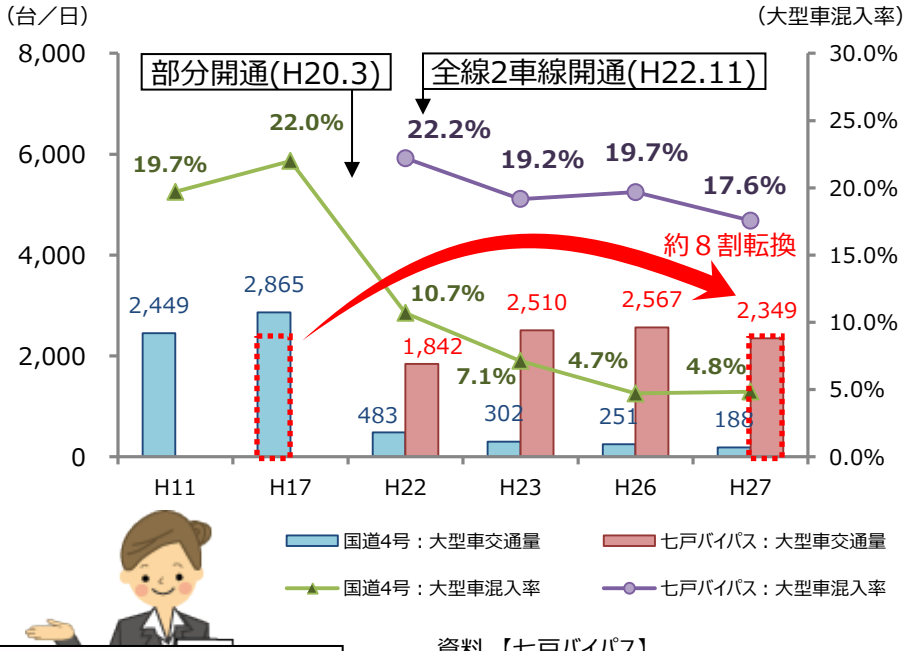
資料：イタルダデータ

2．事業効果の発現状況（５）　安全な交通の確保②

◆七戸町内の旧国道4号は大型車が多く走行しており、冬期は堆雪により、歩道がなくなり、通学児童が危険にさらされていた。
◆七戸バイパスの開通により、七戸バイパスと並行する旧国道4号の大型車交通量の約８割が七戸バイパスへ転換しており、通学児童の安全性確保につながっている。



▼ 大型車交通量（12h）の推移（A－A'断面※）



▼ 整備前の通学状況について



＜七戸、城南小学校教職員の意見＞

○七戸バイパスが無かった当時、旧国道4号は大型車が多く、児童は毎日、交通事故の危険にさらされながら旧国道4号を利用して通学しており、教職員の心配の種となっていた。

○七戸バイパスができて旧国道4号を通る**大型車交通量は少なくなり、とても安全になった**。　（H28.1　ヒアリング結果）

資料　【七戸バイパス】
H22道路交通センサス※A´の位置
H23、H26トラカンデータ※B´の位置
H27交通量調査結果※A'の位置
【旧国道4号】
S63～H22道路交通センサス※Aの位置
H23、H27交通量調査結果※Aの位置
H26交通量調査結果※Bの位置